

FE-NV シリーズ発売に寄せて

「しろまる (S-071)」

カノン 5D

Fostex の FE シリーズが、今年、新たに生まれ変わりました。新シリーズの名前は「FE-NV」。フルレンジ、紙コーン、8cm〜20cm 口径のラインナップ、バックロードホーンでも使える特性という、FE シリーズらしさをしっかり残してのモデルチェンジでした。

中でも我々マニアを驚かせたのは、その特性。中域に大きなディップがある周波数特性は、様々な議論を呼びました。過去の FE シリーズでも見たことのない特性に、長岡派の私も多少なりとも困惑したものです。(実際は、測定方法の変更により目立つようになっただけなのですが…)

自作スピーカーの世界は、ここ 10 年で大きく変わりました。長岡先生の著書を参考に試行錯誤した 10 年前と比べ、PC を活用した測定方法の充実・普及、SNS を通じた情報の伝達、CP 比に優れた海外製品の広まり...等、10 年前には想像もできなかったことが起こっています。とくに視覚的に分かりやすい「周波数特性」はある種の共通言語でもあり、音の判断材料として随所に用いられています。

そうした情勢のなかで、「FE-NV」の立ち位置は何なのか。周波数特性のフラットさで魅せる製品ではない のは間違いないでしょう。FE-NV の魅力は、長岡先生のいう「軽量振動板、強力な磁石」という考えを一途に守り続ける設計思想、特性の平坦さだけを追い求めた製品には出せない音作り、にあるのではないのでしょうか。車に例えるなら、乗り心地も運動性能も燃費も優れる車が普及するなか存在する、人馬一体となる悦びを追求したライトウェイトスポーツカーといった趣ではないのでしょうか。

欠点がないとは言えませんが、それを大きく上回る「代えがたい魅力」を放つ FE-NV。この機会に楽しんで頂ければ幸いです。



「しろまる」
ユニット：10cm 口径フルレンジ
Fostex FE103NV
ネットワーク：なし
箱容量：約 5L
箱材料：ひのき、カバ合板、アルミ補強材

「しろまる」はシンプルなバスレフ型スピーカーです。箱の不要振動を抑制するために「KOTUBU」という小型インシュレーターを前面と天面に貼り付けています。